

温熱化学放射線治療で CR となった直腸癌膀胱浸潤の 2 例

社会医療法人共愛会 戸畑共立病院 臨床工学科 樋口優子

共同演者

臨床工学科 川崎玲、垣下ひかる、大田真

放射線科 森岡文明、靱田義士、成定宏之、今田肇

【症例 1】

70 歳代男性。2011 年 5 月、直腸癌と診断され同年 6 月、当院受診。造影 CT で膀胱浸潤、左肺転移を疑う結節を指摘され 7 月より温熱化学療法を開始。骨盤へ温熱治療を全 89 回、平均出力 $1012.9 \pm 148W$ で施行。2012 年 1 月、骨盤へ放射線治療を施行し、放射線皮膚炎が出現した事で骨盤への加温が困難となった為、加温部位を骨盤から肺へと変更。その後、肺への温熱治療を全 9 回、平均出力 $1011.1 \pm 125W$ で施行し、2012 年 3 月の CT で CR となり、現在も維持している。

【症例 2】

40 歳代男性。2013 年 1 月、排便困難な状態となり近医受診。当院での精査の結果、直腸癌膀胱浸潤と診断。同年 5 月より温熱化学放射線治療を開始。温熱治療については全 26 回、平均出力 $409.6 \pm 81.3W$ で施行し、6 月の CT で腫瘍の著明な縮小が見られ、CEA も正常化し CR となった。

【考察】

2 症例共に放射線治療に、温熱化学療法を併用した事で増感効果が得られ、薬剤耐性が出現する事なく、同一レジメンでの治療が継続可能であった事は温熱治療の恩恵である事が示唆される。

【結語】

今回、温熱化学放射線治療で CR となった直腸癌膀胱浸潤の 2 例を報告した。